

危機管理産業の国際化 — 日本再生の新たなる道

国際予防医学リスクマネジメント連盟(URMPM)
日本予防医学リスクマネジメント学会(JSRMPM)
理事長 酒井 亮二

近年では、スマトラ沖大地震と津波、パキスタン地震、中国四川省地震、ハイチ地震およびチリ地震と津波といったように世界各地で災害が発生しており、地殻マグマの上に形成された地表の薄皮での自然環境リスクの巨大さを認識させられます。

日本は火山地帯の上の島国であり、また、アジア・モンスーンが狭い急激な起伏の国土を直撃する自然にあります。そのために、地震、津波、台風、洪水、雪害など狭い国土には極めて高い自然リスクが存在し、ハイリスクによる悲惨な歴史が繰り返されてきました。明治時代における三陸沖津波の大災害から、津波は英語として世界の人々の共通単語にまでなっています。

東京は世界のメガ都市の中で、地震リスクが世界一高く、そこでの直下型地震では国家予算の数倍の被害が発生し、グローバル社会では世界的な経済恐慌の発生が懸念されます。

日本はこのような劣悪な自然リスクの存在があるがゆえに、防災と減災に関する技術とシステム、ならびに災害時の迅速対応医療システム(DMAT)などといった、世界的に優れた知識と技術が開発・集積されています。世界的に高いレベルの諸成果は、世界各地での災害にも適用できるものです。

たとえば、チリの地震では日本の耐震建築技術を導入した地域では建造物の倒壊が極めて低い発生度でした。日本で開発されている強度世界一のコンクリート、鋼鉄より硬いガラス・セラミックス、地震情報迅速発信システムといった、極めて多種多様な防災・減災の科学技術は世界が熱心に求めているところです。

病院船や病院ヘリなどの災害医療システム、耐震の都市計画、耐震建造・建築物、災害のIT技術、災害でのロボット工学など、日本では様々な危機管理分野にわたって独特の技術・産業が開発されており、グローバル化した世界において巨大産業を振興するチャンスです。世界的にもきわめて厳しい自然リスクを内在する日本という特殊な国土で発達してきた生存安全に関する高度な科学技術は、国際総合産業としてグローバルに転換する歴史的な時期が迫っており、世界各地から日本への期待が高まっています。

この種の産業の国際化は、同時に、本分野での科学技術・産業を国内でより高度に育成し、それを通じて日本の安全は更に強固となります。危機管理産業の国際化は、日本発の新たな世界史の始まりであり、日本再生の新たなる道の1つでしょう。